

令和元年度第2回「ほっかいどう未来チャレンジ応援会議 学生留学部会」 議事録

日時 令和元 10 月 1 日（火） 10 時 00 分～10 時 40 分
場所 北海道庁本庁舎 2 階 総合政策部会議室
出席者 サッポロビール株式会社 栗原 史
(敬称略) 株式会社北洋銀行 東田 隆史
小樽商科大学 中村 義伸、中津川 雅宣（地域コーディネーター）
北海学園大学 高橋 律裕
北海道教育大学 山口 文章
北海道大学 富樫 剛、石黒 公美、川野辺 創（地域コーディネーター）
酪農学園大学 横川 容子
札幌市 佐藤 格郎、児玉 彩綾
北海道（事務局） 酒井参事、永田主幹、石本主査、新原主任

- 議題
- 1 平成 31 年度の応募実績等について
 - 2 アンケートの結果について
 - 3 支援対象分野の見直しについて
 - 4 書面審査委員について
 - 5 制度改正のスケジュールについて

議事

- (1) 議題 1（平成 31 年度の応募実績等について）
 - ア 事務局（永田主幹）から資料 1 に基づき説明
(特記事項) なし
 - イ 質疑応答 (有・無)
- (2) 議題 2（アンケートの結果について）
 - ア 事務局（永田主幹）から資料 2 に基づき説明
(特記事項) なし
 - イ 質疑応答 (有・無)
- (3) 議題 3（支援対象分野の見直しについて）
 - ア 事務局（永田主幹）から資料 3 に基づき説明
(特記事項) なし
 - イ 質疑応答 (有・無)
- (4) 議題 4（書面審査委員について）
 - ア 事務局（永田主幹）から資料 4 に基づき説明
(特記事項) なし
 - イ 質疑応答 (有・無)
- (4) 議題 5（制度改正のスケジュールについて）
 - ア 事務局（永田主幹）から資料 5 に基づき説明
(特記事項) なし
 - イ 質疑応答 (有・無)
- (5) その他
北海道大学 川野辺教授） 機構の資料によると、他の地域と北海道の応募倍率を比べると、他地域がせいぜい 2 倍程度なのに対して、北海道は 4 倍となっており、倍率が高くなっていると認識している。

制度を改正すると色々な分野の学生が応募しやすくなるため、応募者が増加すると考えている。予算がどの程度確保できるかによると思うが、採用予定人数はどの程度になる見込みか。

酒井参事) 現在、道庁内部で来年度予算の協議をしているところだが、今年度並みの予算を確保すべく動いているところ。学生留学コースの予算は1千万円程度なので、5～6人分の枠はある。応募者が増加し合格者数が現状と変わらなければ、倍率が高く学生にとっては厳しい選考となるが、その分、優秀な学生を送り出すという事に繋がると考える。

北海道大学 川野辺教授) 幅広く採用できるようにするため、予算の確保に引き続きご尽力いただきたい。

小樽商科大学 中津川助教) 今年度の書類選考をしていて、ほとんどの学生は大学から応募書類の提出があった時点で、既に交換留学での派遣内定が決定しており、その留学費用を確保のために、みらチャレに応募する学生が多いように感じた。そのような場合、自分の留学に対する目的と留学先がマッチせず、無理矢理こじつけて応募する学生もあり、事業の趣旨とズレていると感じた。

北海学園大学 高橋係長) 本学の場合は、基本的には協定校等の縛りはないが、今まで本学から派遣されている学生は2人とも協定校ではなく、自分で目的を見つけて、自分で留学先を探した学生となっている。本学では協定校への留学には補助を出しているのですが、みらチャレで改めて資金を得るというケースはなく、事業の当初の趣旨どおりの学生が派遣できていると考えている。

事務局 酒井参事) 大学によって事情が異なるので一律に同じ状況ではないが、趣旨が変わってきているのではないかというご指摘は、事務局としても承らせていただいく。来年以降事業を継続するなかで、こういった選考の仕方があるのかを勉強していきたいと考えているので、各大学の皆様からもご助言をいただきたいと思っている。

以 上